

獣の刻印？ ビル・ゲイツが国家的なデジタル ID 奴隷システムを明かす

<https://www.infowars.com/posts/mark-of-the-beast-bill-gates-unveils-national-digital-id-slave-system/>

Adan Salazar/ Infowars

August 22, 2023

⇒「国家が広くデジタル ID を導入しても、政府がサービスを提供しやすくなることはない——むしろ政府はあなたをサービスから、より遮断しやすくなるだろう」と、あるサイバー・セキュリティー専門家は言った。

グローバルリストのビル・ゲイツは、〈貧困をなくする有効な道具〉と彼が呼ぶものを作り出すと主張する、デジタル ID システムを唱道した。しかし、彼の理想である「獣の刻印」式社会クレジット刻印システムは、オンラインで懐疑的な評価を得ている。

月曜日、ゲイツの主張では、(前のツイッター) X への投稿で、あるインドで開発された公開デジタル ID のソースは、「生活を変えることができ、世界的に障壁をすべて取り除くことができる」のだという。

「アイデンティティの証明があれば、人々は経済に完全に参加することができる。それは雇用や教育のみならず、銀行業や政府プログラム、ヘルスケアのようなサービス事業に就くことを容易にする」と、ゲイツ財団関係の論文は言っている。[GatesFoundation.org](https://www.gatesfoundation.org/ideas/articles/mosip-digital-id-systems?utm_source=twitter&utm_medium=social&utm_campaign=dpi2023&utm_content=BG)
https://www.gatesfoundation.org/ideas/articles/mosip-digital-id-systems?utm_source=twitter&utm_medium=social&utm_campaign=dpi2023&utm_content=BG

「もしある人物が、誰であるかを証明できないならば、その人は、社会が提供すべき機会のすべてを享受することが、できるだろうか？」と、この論文は問いかけ、いかにデジタル ID システムが、人々にアクセスを可能にし、デジタル公共インフラストラクチャ(DPI)に接触することができるかを強調している。

「研究者たちは、DPI は、低所得と中間所得の国家を、伝統的な段階を飛び越えて開発させ、貧困を百万という額に引き上げ、経済成長を加速させると言っている」と、ゲイツ財団は主張する。

しかしオンラインでは、人々は、ゲイツのデジタル ID 計画は——聖書に予言されたサタン的な〈獣の刻印〉に不気味に酷似して——全く反対の効果を持つもので、もし人々があるルールに従わなかったり、ある行動を取らなかったり、ある要求に応えなかったりしたら、彼らをサービスからロックアウトするであろうと指摘した。

「ゲイツが宣伝するほとんどのものと同じく、その正反対が史実なのだ」とサイバー・セキュリティ専門家 Mike Benz は言い、加えて「国家規模のデジタル ID は、政府がサービスを提供することを、より容易くするものでなく、政府があなたからサービスを締め出すことを容易にするものだ」と言った。

そればかりか、多くの人々はゲイツに懸念を示しており、彼は最近の Covid-19 の総崩れと、続いて起こったワクチン宣伝の大失敗に責任があり、あらゆる人々のアイデンティティに全く自由にアクセスしていると言っている。

「あなたは、もしグローバルな ID システムを持っていなければ、グローバルな社会クレジット・システムを持つことはできない」と、ある辛辣な X ユーザーは言い、「有難いことに我々は、ビル・ゲイツのような、選挙によらないグローバリスト官僚を持っていて、そのおかげで共産主義テクノクラート・ユートピアを復活させることができた」と書いている。

他のある者はまた、ゲイツが自分の記事に対する返事をブロックしていると非難しており、多くの人がこれは、彼が何らかの邪悪なものに取り掛かっている証拠だと言っている。

King James 版聖書の「ヨハネの黙示録」13 章 16-17 節は、こう述べている：——「また（その獣は）、小さき者にも大いなる者にも、富める者にも貧しき者にも、自由人にも奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、その刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもできないようにした。この刻印はその獣の名、またはその名の数字のことである。」

グローバリストたちが、彼らのテクノクラート・一世界政府の支配グリッドを成功させようと躍起になっていることを考えれば、ゲイツが、デジタル ID の到来を寿ぐ論文を出版しようとしているのは、頷ける話である。しかし、ますます多くのキリスト教徒や、自分で考えることのできる人々が、悪なる全体主義の、悪夢の現実に目覚めつつある。そしてこれまでに例のない、新しいレベルのレジスタンスの火花を飛ばしている。

参考資料：「生物兵器攻撃：ビル・ゲイツが mRNA 技術によって、この惑星の人口を減らそうとしている」

<https://www.infowars.com/posts/bioweapon-attack-bill-gates-wants-to-depopulate-the-planet-with-mrna-tech/>

[訳者 Greatchain 注]

ビル・ゲイツが数年前、「秋の叙勲」が行なわれたとき、政府から功労者として特別に顕彰されたことを覚えている人は多いだろう。ゲイツの行動が怪しいものであることは、当時から周知の事実であったから、これは申し開きようもなく、わが政府が、グローバルリストの悪に加担していた（いる）ことを示している。それはバイデン政権を何の疑いもなく、その事実や実績に何があろうと関係なく、全面的に支持し協力する彼らの方針に現れている。

ここで言われている「デジタル ID システム」とは、番号によって国民の誰が誰であるかを一目瞭然に証明する政府のシステムのことだから、今問題になって異論の多い「マイナンバー」システムと、ほぼ同じものであろう。

ここに聖書の話が出てくる。政治家やメディアの人々で、聖書や宗教などというものを馬鹿にする人がおられたら、これをよく読むべきである。これは国民の一人ひとりを容易く扱えるように、彼らにしるし（番号）をつけて統治し支配する計画のことである。これは便利に違いない。しかしそれは政府から一方的に見た場合であって、我々はまったく逆にこれを利用して、不利益と不自由だけが手に残るかもしれない。それがここにわかりやすく説明されている。

まさに今起こっていることが、ほぼ2千年前の聖書に予言されていた。そんな馬鹿なことを誰が信ずるかと言って、怒り反発し嘲笑する者たち自身のことも、2千年前に予言されていた。